森林と国有林に関するアンケート調査

岩村田・小諸担当区事務所　○池戸　健志
経営課収穫係　寺澤　進

はじめに

近年、国民の森林に対するニーズは従来から言われている「木材の生産」・「水資源のかん養」といった働きに加えて、森林空間を利用してのレクリェーションの場としての働きを求めるなど、そのニーズは多様化してきている。

このような変化の中で、国民の多様なニーズをを的確に把握し、今後の事業運営の参考とするために「森林と国有林に関するアンケート調査」を行った。

1．調査の時期

平成２年８月から１２月までの５カ月間。アンケート総数９６６人

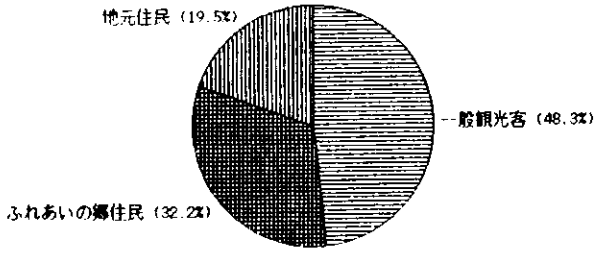
2．調査の対象者　（図－１）

日頃の森林とのふれあいの多少によって、大きく３つのグループにわけた。

① 都会に住んでいて、日頃森林に接する機会の少ないグループ。具体的には観光客を対象にＪＲ軽井沢駅や小諸駅などで面接調査を行い４６７人から回答を得た。

② 日頃から森林に接する機会の多いグループとして、浅間森林組合の総代とその家族を対象に郵送により調査を行い１８８人から回答を得た。
総代は、小諸市、御代田町、軽井沢町で農林業に従事している者である。

③ 中間のタイプとして、普段は都会に住んでいるが別荘を所有し、時折森林とのふれあいを持つグループとして、ふれあいの郷住民を対象とした。
アンケートは軽井沢、北白樺および天城ふれあいの郷（東京営林局）住民を対象に、郵送調査により行い３１１人の方から回答を得た。



図－1
調査対象者

3．　アンケート調査の項目

（１）森林についてどの程度知っているか。

（２）営林署はどのくらい知られているか。

（３）森林は誰が整備し、その費用を誰が負担すべきか。

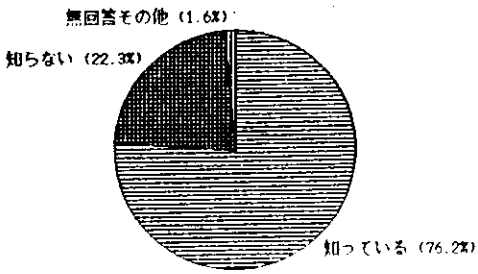
（４）森林の利用のあり方について。

この結果多くの事が解ったが主なものについて紹介する。

4．結　果

（１）森林についてどの程度知っているか

ア．　「天然林と人工林の違いを知っているか」聞いたところ「知っている」と答えた人は全体の７６％を占めた。（図－２）しかし一般観光客４６７人に限定して言うと６６％と１０ポイント低くなっている。



図－2
天然林と人工林の違いを知っているか

イ.　想像していたよりも多くの人が知っていたが、これには年代により差があるのではと考え、年代別に天然林と人工林の違いを知っている人の割合を算出した。（表－１）

表－１

（単位：％）

年代別 / 人・天の違い	20才未満	20~29才	30~39才	40~49才　50~59才	60才以上
知っている	45	52	56	87	97
知らない	55	48	44	13	3

年代別にみると「知っている」と答えた人の割合は、２０才未満では４５％、２０代では５２％、３０代では５６％、　４０代及び５０代では８７％、６０才以上では９７％となっており年代が高くなるにつれて「知っている」と答えた人の割合は高くなっている。

更に、これは４０才を境に大きな隔たりがあった。４０才未満の平均では５０％なのに対し４０才以上では９０％と大きく違っている。

これは若年層の人たちの森林・林業とのふれあいの機会が減少してきていることが原因と考えられる。

ウ.　調査したグループ間でも差があるのではと考え、森林の知識とグループの２つの項目をクロスさせた。（表－２）

表－２

（単位：％）

調査グループ / 人・天別	一般観光客	ふれあいの郷住民	地元住民
知っている	66	82	93
知らない	34	18	7

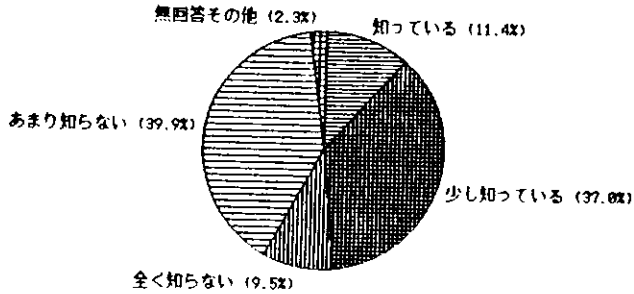
３つのグループを見ると「知っている」と答えた人の割合は、一般観光客の６６％に対して、ふれあいの郷住民では８２％と高く、更に地元住民では９３％と極めて高い数値を示している。

エ.　このことから日頃、森林に接する機会の多い人ほど「天然林と人工林の違い」をよく知っていると言える。

（２）営林署はどのくらい知られているか

営林署はなじみの薄い官庁だと言われているが、その実態を探ってみた。「営林署を知っているか」聞いたところ、図－３のように「かなり知っている」と答えた人は１１％、「少し知っている」が３７％、「あまり知らない」が４０％、「全く知らない」が１０％となっており、ちょうど５割の４７７人の人が「あまり知らない・全く知らない」と答えている。

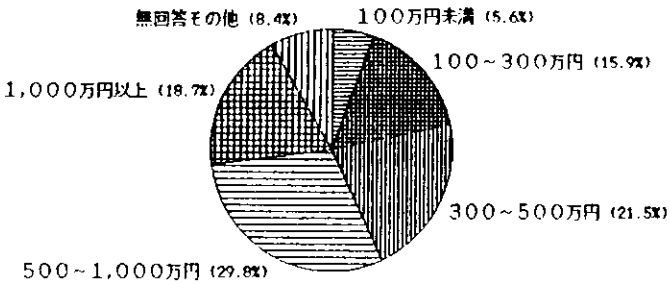
一般の方々に国有林を理解して頂くためには、もっとＰＲの必要性があると思われる。



図－３
営林署を知っているか

（３）森林は誰が整備しその費用を誰が負担すべきか

ア．　森林の造成には長い年月と多額の費用を必要とするが、一般の方はどのくらいの経費がかかると思っているか調べるため「ヘクタール当りの森林造成費はいくらかかるか」聞いてみた。（図－４）



図－４
１ｈａ当たりの造成費

その結果、５００万円以下と答えた人が最も多く４４％、５００万円から１，０００万円と答えた人が３０％、１，０００万円以上かかると答えた人が１９％、わからないと答えた人は８％いた。

イ．　造成費についても天然林と人工林の違いを知っているか知らないかによって差があるのではないかと考え天然林・人工林の違いと森林造成費の２つの項目をクロスさせてみた。（表－３）

表－３

（単位：％）

造成費 / 人・天の違い	300 万円以下	~500 万円	~1,000 万円	1,000 万円以上	無回答	計
知らない	9	12	23	30	26	100 (215 人)
知っている	26	24	32	16	2	100 (736 人)

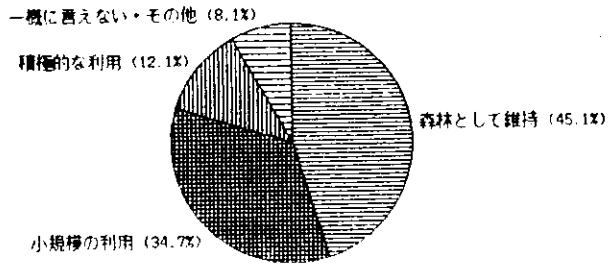
天然林と人工林の違いを「知らない」と回答した人は、森林の造成費を高く見積る傾向があり、　１，０００万円以上と答えた人は３０％もいて「知っている」と回答した人の１６％に比較して１４ポイント高くなっている。一方、天然林と人工林の違いを「知っている」と答えた人では費用を多く見積った人が多く５００万円以下と答えた人は、ちょうど半分の５０％おり「知らない」と回答した人の２１％と比較して２９ポイント多くなっている。

ウ．　このことから森林についての知識の少ない人ほど費用を推測できないため、コストを高く見積っていることがわかる。

（４）森林の利用のあり方について

ア.　「国有林を今後どのようにに取り扱ったらよいか」聞いたところ、（図－５）のように「森林として維持する」が４５％、条件付きで別荘等の施設を点在させるという「小規模な利用」が３５％、スキーやゴルフなども楽しめるように自然環境に影響を及ぼさない範囲で「積極的な利用を図る」が１２％となっている。

「小規模な利用」と「積極的な利用を図る」の両者をあわせると４７％が「森林の適切な利用を図る」を選択しており「森林として維持する」の４５％よりも２ポイント上回っている。



図－５
森林の利用のあり方

平成元年度に行われた総理府の「森林と生活に関する世論調査」では「森林の積極的利用を図る」と答えた人は、わずか１９％であるのに対して今回の調査では、「森林の適切な利用を図る」が４７％と著しく増加している。

利用賛成者の多い「ふれあいの郷住民」を除いた「一般観光客」だけに限定してみても、３８％と依然高い数値を示している。

この違いの原因は、回答の選択肢が増えたためと思われる。総理府世論調査の場合、答えは「慎重な利用」と「積極的な利用」の二者択一となっている。それに対して、今回の調査では「森林として維持する」、「条件付きで小規模利用する」、「積極的な利用を図る」と３段階に分けて、より細かな聞き方をした。

このため中間的な「小規模な利用」の賛成者が増えてその結果「適切な利用を図る」が４７％になったものと思われる。

今回は選択肢多くしたことにより、一般の方々の「森林の利用」についての意向、考え方がより正確に把握できたものと思われる。

イ.　森林の利用について、グループ別にどのように違っているか調べてみた。表－４は、「調査グループ」と「森林の利用」とをクロスさせたものである。

表－４

（単位：％）

利用 / グループ	森林として維持	小規模の利用	大規模の利用	その他
一般観光客	５２	２７	１０	１０
ふれあいの郷住民	３０	５２	１２	６
地元住民	５２	２２	１９	７

「小規模な利用」と「大規模な利用」を合わせた比率でみると「一般観光者」、「地元住民」では、それぞれ３７％、４１％なのに対し、「ふれあいの郷住民」では６４％と２０ポイント以上も高く際だっていることがわかる。

ふれあいの郷住民は、体験的に「ふれあいの郷」のような「小規模利用」を好ましく思っていることを示している。

ウ.　どういう人が「森林の大規模な利用」に賛同しているのか調べるため、「利用目的」と「森林の利用」とをクロスチェックさせてみた。（表－５）

スキーをする人の約４割（３９％）が「大規模な利用」を選択しているのに対し、「自然観察のため」という人の場合はわずか３％であり著しく大きな違いがある。このことから「森林の大規模な利用」に賛同している者は、自らがスキー等の「森林の大規模な利用」の恩恵を享受している者が多いということが言える。

表－5

（単位：%）

森林の利用 ＼ 利用目的	森林として維持	小規模の利用	大規模の利用	その他
スキー，登山	23	35	39	3
キャンプ，ドライブ	48	25	25	2
自然の観察等	83	9	3	5

まとめ

これらの事をまとめてみると第１点は、半数の人が営林署を「あまり知らない・全く知らない」と回答しており、また４０才未満の若い世代では半数の人が「天然林・人工林の違いを知らない」など一般の人々、特に若い世代の森林・国有林離れが進んでいると言える。

第二点目は森林・国有林に接する機会の多い人ほど「天然林・人工林の違いについて」や国有林を知っていると言える。

第三点目は森林の利用の仕方については、「適切な森林の利用を図る」とする者が約半分おり、特に「ふれあいの郷住民」は利用賛成者が他のグループと比較して多くなっている。

森林・国有林に対する理解を深めてもらうためには、より一層のＰＲが必要であり、この手段としては都会の人を取り込んだ「植樹祭」や「森林教室」の実施が効果的と思われる。

これらに加えて、ふれあいの郷整備事業の促進や林間学校施設の導入により、一般の方々と森林とのふれあいの場を増大させることが、森林・国有林のＰＲにつながり効果的と思われる。

当署では、森林・国有林のＰＲの１つとして昨年、小・中学生によるミズナラ植樹祭を実施した。

今年はさらに幅広くＰＲするため、小諸市との共催により親子参加によるレンゲツツジ植樹祭を予定している。

おわりに

今後も、今回のアンケート調査をもとに観光地・軽井沢を持つ恵まれた立地条件を生かしながら、若い世代や都会の人を対象とした森林・国有林のＰＲを積極的に努めて行きたい。